

「国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部 4年 (佐藤美帆)

私は2022年3月1日から18日に行われた、オンライン形式での国立台湾大学スプリングスクールに参加しました。私が本プログラムを志望した理由は、1. 大学であまり学んでこなかった身近なアジアや台湾について学びたい、2. キャリアを広げるために新しく中国語を学びたい、3. 充実した中国語教育を海外の学生と共に受けたいという3点からでした。以下、自分の志望理由をふまえて、①学習成果、②プログラム内容と経験、③進路への影響の観点から、本プログラムに参加した所感を述べたいと思います。

①学習成果

私は今年3月で卒業しドラッグストアへ就職することが決まっていたため、留学や大学での学習への意欲は変化しませんでした。ただし、実際に台湾に行き、今回お世話になった人々と直接会いたいと強く感じました。国際理解への意欲については、プログラムへの参加が決まってから国際ニュースにより敏感になりました。特に、台湾大学の学生との交流セミナーでジェンダーについて発表したため、ジェンダーへの関心が高まりました。また、ウクライナでの戦争に対する台湾の反応を知り、日本の防衛や国際政治についてもっと知りたいと思いました。講義動画や学生との交流から、台湾と日本はともに中国文化の影響を受けており多くの共通点があることや、それと同時に相違点があることを感じました。録画講義で台湾の先住民の話聞き、台湾の中にも多様な文化があることを学びました。志望理由の1番目であるアジアや台湾を学ぶことを達成でき、台湾がより身近になりました。

また、このプログラムでの一番の成果は中国語だと思います。私は1月に本プログラムの参加が決まってから、初めて中国語の勉強を始めました。事前語学教室やプログラムを経て、最終日には中国語で自己紹介や対話形式のペア発表を行えるようになりました。志望理由の2つ目である中国語の習得をある程度達成することができ、大変有意義でした。ただ、交流セミナーなどで話されている中国語が全く理解できず悔しかったので、これからも中国語を勉強しようと思いました。

②プログラム内容と経験

プログラムは平日1日約2.5時間の中国語のオンライン授業がメインでした。それ以外には、台湾に関する計6時間の録画講義の視聴、土曜午前のオンライン観光、計9時間の台湾大学の学生とのチューターセッションがありました。最終日には中国語で10分程度のプレゼンテーションを行いました。正規のプログラム以外では、台湾大学の先生の計らいで、台湾大学の学生との交流セミナーがありました。オンラインで長時間受講することに慣れておらず、1~2週目に体調を崩しました。

中国語の授業は先生が1人で学生が2人でした。そのため発言する機会が多く、積極的に授業に参加することができました。授業内容は、初学者だったため、発音から始まり、買い物や電話のかけ方、場所を尋ねる表現などを学びました。内容が盛りだくさんだったのですぐに覚えられないことも多かったのですが、先生が辛抱強く教えてくださいととてもありがたかったです。

録画講義では、台湾の文化や歴史、先住民、宗教観について学びました。大変興味深かったのですが、いつでも見られると思い、なかなか計画的に見る時間を確保できませんでした。

オンライン観光では、2つの寺院を訪問し、他のクラスの参加者たちと一緒にガイドの案内を聞きました。案内が詳しかったので、現地で1人で観光するより多くの知識を学べたと思います。

チューターセッションは、中国語の授業のクラスメイトと一緒にでした。授業の復習や学生による台湾の紹介がありました。チューターは最終日のプレゼンテーションの手助けもしてくださり親切でフレンドリーでした。関わる人に恵まれた留学でした。

プログラムは英語で行われたものが多かったので、コミュニケーションの手段として英語を使う貴重な機会にもなりました。

参加者はすべて日本人だったため、志望理由の3つ目である海外の学生と共に学ぶことは達成できませんでした。そもそもオンラインなので、基本的に中国語の担任の先生、クラスメイト、チューターとしか話す機会がありませんでした。

③進路への影響

就職先で中国や台湾のお客様や取引相手と中国語で話ができるようになりたいという気持ちがさらに強まりました。